

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

島根県益田市

○学校名

益田市立高津中学校

○学校のURL

無し

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】各学年 3 学級 【特別支援学級】 2 学級 【合計】 11 学級

○児童生徒数

【全生徒数】 275 人（平成 24 年 11 月 1 日現在）
（内訳：1 年生 101 人、2 年生 86 人、3 年生 88 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】

自ら学び、心身ともに健康でたくましく生きる人間性豊かな生徒の育成をめざす

【人権教育に関する目標】

互いを認め合い、ともに向上していこうとする生徒の育成

- ① 「学び合い」学習を軸に、互いの意見を受け入れ、認め合える集団を目指し、学習に対する興味や意欲を持つことで、生徒一人一人が主体的な学習姿勢を身につける。
- ② 人権や人権課題についての科学的な認識を深め、人権尊重の精神を持ち、正しい判断力を持って行動しようとする実践力を身につける。
- ③ 人権意識を培う授業や交流活動を通して、互いの違いを認め、共に高まろうとする態度を身につける。

○人権教育にかかる取組の全体概要

平成 23・24 年度文部科学省人権教育研究指定校として指定を受け、「互いを認め合い、ともに向上していこうとする生徒の育成」を研究主題とし、以下の取組を重要な柱として人権教育を推進した。

- ① 人権意識を高める授業の充実
- ② 人権意識を高める体験・交流学习の充実
- ③ さまざまな課題を持つ生徒への支援の充実
- ④ 保護者や地域と連携した教育活動の推進
- ⑤ 人権意識を高める職員研修の充実

3. 特色ある実践事例の内容

人権意識を高める体験・交流活動の充実への取組

【1】 広島朝鮮初中高級学校中級部との交流（平成15年度から）

（取組のねらい、目的）

全校・・・学級、学年での交流や異文化交流を通じて、体験的にお互いの共通点や違いを知り、それをお互いに受け入れる心情を育てる。

1年・・・学級、学年でのふれあいを行い、出会いの場を通じて、体験的にお互いの共通点や違いを知る。

2年・・・お互いの共通点や違いをより一層理解し、それらをお互いに認め合おうとする心情を育てる。

3年・・・お互いに違いを認め合いながら、これから社会で一緒に生活していこうとする心情を育てる。

（取組の内容）

事前に学年集会、全校集会を行い、交流の意義などを学習し、交流会当日は、午前中、学級・学年での交流を行い、午後からは全校での国際文化交流を行った。



【2】 修学旅行での京都洛友中学校夜間学級との交流（平成18年度から）

（取組のねらい、目的）

・学ぶことのありがたさを感じながら大人になってから学ぶ人たちとの交流を通して、学ぶことの大切さに気づかせる。

・夜間中学校で学ぶ人たちと実際に交流することを通して、識字学級や夜間中学校の存在や実情を知り、差別の現実を学び、差別を許さない心情を育てる。

（取組の内容）

○事前学習

- ・映画「学校」の視聴
- ・吉田一子さんについて

○当日の交流

全体を2グループに分けて、夜間学習についての説明、授業参観を行った。

○事後指導

- ・参観日での「夕やけがうつくしい」を使っでの道徳の授業



【3】 人権集会

（取組のねらい、目的）

高津中人権の日（12月22日）に合わせて、校内をはじめ、身近なところでの人権について考える機会を設け、誰もが気持ちよく学校生活を送ることができるようにする。

(取組の内容)

(1) (学活) 高津中人権宣言についての話し合い

(ア) アピール文を聞く。(校内放送・広報委員長朗読、ワークシート)

アピール文を聞いて、人権宣言を作ったときの生徒たちの気持ちを考える。

高津中人権宣言アピール文

今、この学校に来ていて本当にみんな楽しいと思っているのでしょうか？この問いかけに皆さんはどう答えますか？もし、家庭で嫌な事があったとき、学校に来て癒される雰囲気は今の高津中にはないと思います。だから、一部の人だけが楽しいだけではなく、みんなが心の底から爆笑できる楽しい学校を目指しましょう。

また、学校でかたみが狭いと感じている人がいると思います。口には出さないけど心の中では、とても苦しい思いをしている人がいるのではないのでしょうか。だから一人一人の個性が充分に認めてもらえば、だれもがありがたのままでいられる学校生活がおくれると思います。

そして、高津中にはまだ同級生の中にも上下関係があったり、先輩と後輩の間にも、大きなかべがあります。そのような上下関係をなくすために誰もが対等に向きあえる学校にしていければいいと思います。

最後に、いじめ、差別をしない・させない・許さない学校にするために今日、このときを限りに高津中学生一人一人が絶対にいじめ、差別しないと誓いましょう。そして、もし起きた時には、一人一人が勇気をふりしぼり、いじめや差別などをされている人にみんなで手を差し伸べましょう。

以上のことを全校生徒で固く誓いましょう。

2006年1月15日 高津中学生会

(イ) 高津中人権宣言実現のための話し合い(司会 各学級広報委員)

「高津中人権宣言実現のために、どのようにすればいいか。」

高津中人権宣言

みんなが心の底から爆笑できる学校にしよう！

- ・わたしがありがたのままでいられる
- ・誰もが対等に向き合える
- ・いじめ、差別をしない・させない・許さない



(2) 全校での人権集会（高津中人権の日【12月22日】前後）

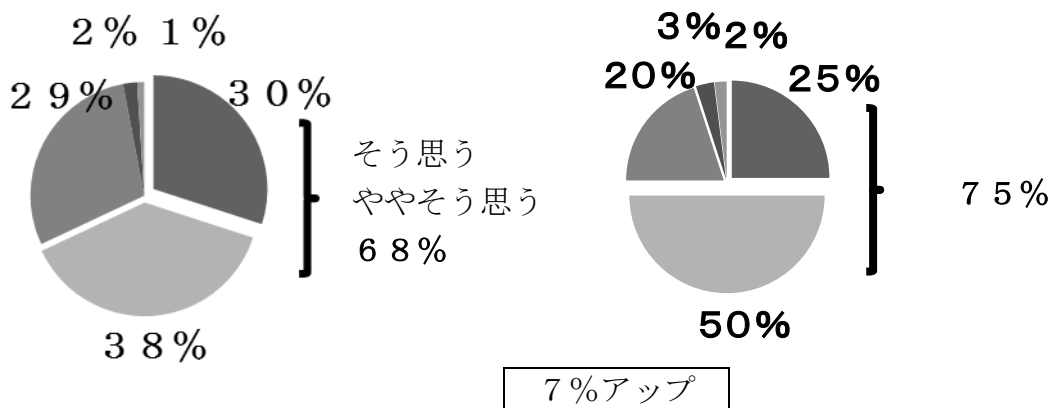
各学級で出てきた意見と人権についてのアンケートの集計結果を発表する。

4. 実践事例の実績、実施による効果

毎年行っている人権アンケートの生徒結果を見ると、「困っている人がいたら助ける」という項目では昨年度よりも 肯定的な評価が増えていた。これは、人権教育への取り組みの成果が感じられる。

○周りに困っている人がいたら助ける。

平成22年6月実施 1・2年生 平成23年6月実施 2・3年生



人権意識を高める体験・交流活動を通して、さまざまな立場の人々と実際にであったり、話したりした。生徒の感想から、他を認め合うことの大切さを少しずつ理解したことがうかがえた。そして、三年間を見通した系統的な活動として、人権・同和問題と向き合うことができた。

(生徒の感想)

【1】 広島朝鮮初中高級学校中級部との交流

(高津中学校の生徒の感想)

- ・初めての交流で、少し不安なこともあったけど、楽しい交流になりました。午前中の学年交流では、朝鮮語を教えてもらいました。みんな、日本語がうまいし、朝鮮語もうまいのですごいなと思いました。午後からの文化交流会では、合唱や踊りがとても上手でした。お互いの文化を知り合えるいい交流会になりました。こういう交流で、国同士も仲良くなれたらいいなと思います。来年の交流会も楽しみにしています。
- ・学年交流会では、朝鮮語での会話が聞けて良かったです。朝鮮学校の皆さんとも、ポケモンの話などで盛り上がれて楽しかったです。給食を「おいしい、おいしい」と言いながら食べる人、女子はみんなきれいに髪をまとめていたり、私たちの生活とは違うこともありましたが、でも、思いなどは同じで、楽しい交流ができました。
- ・今まで、3回という少ない交流を通じて学んだことは、国籍は違っても同じ人間。当たり前のようにだけど差別はいけないということを改めて感じました。

(朝鮮学校の生徒の感想)

- ・益田までは遠かったけど、いったかいがありました。それと学校に着いたとき広島では味わったことのない海などの風景は一生忘れません。また、中2になっていくのが楽しみです。中2になってまた会いましょう。

(校外から交流会を見に来られた方の感想)

- ・朝鮮学校の子どもたちの歌、演奏は素晴らしかった。また、言葉もしっかりしていてあいさつなど聞きやすかった。中学校の発表も日韓の歴史を短くまとめてよかったと思うが、言っている言葉に区切りがなく、全部が聞きにくかったのは残念でした。でも、歌は素晴らしかった。他国の伝統芸能を見られたことはうれしかったです。

【2】 京都洛友中学校夜間学級との交流

- ・教頭先生のお話を聞いたのですが、「つらいことや悲しい思いをした人がほとんどなんですよ。」と言われて胸が痛くなりました。だけど、教室に入ってみると「悲しいことなんてなかったよ」と言っているような明るい笑顔で勉強に取り組んでいて「すごい！カッコいいなあ」と思いました。
- ・私は、洛友中学校のことを知るまで、字は誰でも書けて、子どもは学校へ行くことが当たり前だと思っていました。しかし、戦争など様々な理由で学校に行けない人がこんなに多くいたのは、びっくりしました。

5. 実践事例についての評価

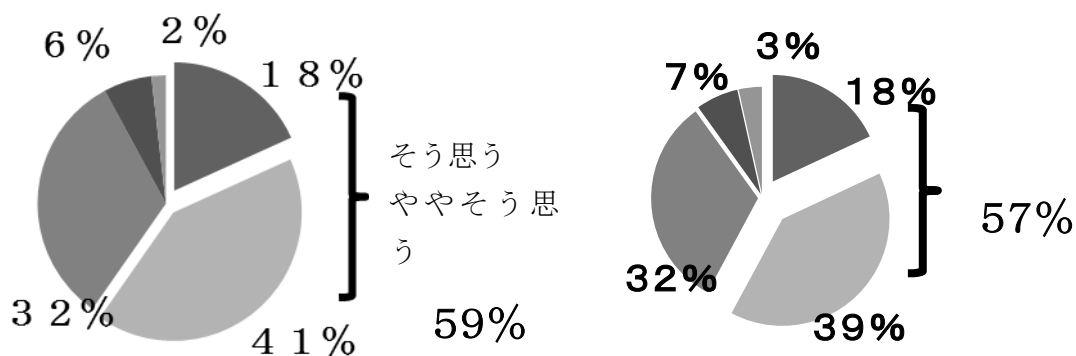
21年度と22年度の保護者に対する人権アンケートの結果より、本校の人権・同和教育の取組の様子が、まだ四割に満たない保護者の方にしか理解されていないことが分かった。

また、生徒に対するアンケートの結果より、

○問題が起こった時、みんなで話し合って解決している。

平成22年6月実施 1・2年生

平成23年6月実施 2・3年生



2%ダウン

「困っている人に手を差し伸べることができるが、皆で解決しようとする力が不足している」ということがこの結果から推測できる。自分の弱さや本音が出せる子ども同士の関係づくりと認め合い、助け合える集団の育成にさらに取り組んでいかなければならないことが課題として浮かび上がった。

この実態をもとに、今後取り組んでいきたいことは、

- (1) 「学び合い」学習を通して、子ども同士の本音が出せる授業を実践すること
- (2) それぞれの体験・交流活動が形骸化しないように、目的や意義についてきちんと職員研修を図ること

- (3) 一人の職員に負担がかからないようにチームとして全員で研究を進めること
 - (4) 地域や保護者との連携を図ること
 - (5) 職員が人権・同和問題に向き合い、さらに研修していくこと
- の五つがあげられる。

これからも、人権・同和教育を推進し、子どもたちに安心して楽しく学校へ通えるように、全職員で意欲を持って取り組んでいきたい。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

益田市立高津中学校

生徒の人権意識を高める＜協力・参加・体験＞の充実を図る具体的な実践を展開している。その学びは、「①朝鮮初中高級学校との交流」「②中学校夜間学級との交流」「③人権集会への参加体験」の3つに集約されている。いずれも、7～8年来の実績を持つ事例であり、生徒個々がその学びによって豊かな人権感覚をはぐくみ、「高津中人権宣言」として結実させている。とくに、①では交流当日までの学年集会や全校集会の場で本校生徒の人間関係を深め、その成果を朝鮮学校との国際文化交流へと展開させている。また、②では京都への修学旅行の場を活用し、現地の夜間学級との交流体験を実現している。その学びを事後の道德の授業にも生かし、差別を許さない心情を育成している。

これらの成果を生徒や保護者へのアンケートをもとに評価し、学び合い学習の改善点の把握、地域・保護者との連携の見直し、教員研修の改善などにも連関させている。